●製薬業界べったりの薬価維持特例導入

来年の診療報酬改定が，薬価の引き下げられる分を上回る診療報酬本体大幅プラスの改定になるのか，あるいは薬価引下げ分しか財源のないプラマイゼロ改定になるのか，あるいは薬価引下げ分まるまるのマイナス改定になるのか，大変気がもめるところです。そんななか中医協では，製薬業界の要望で「薬価維持特例制度」が議論されているとのこと。特許期間中の新薬については，現行の市場実勢価格に応じた２年ごとの薬価引下げをやめ，後発医薬品が出た折にそれまでの下がるべき分をまとめて引き下げるというものだそうです。メーカーはその間の蓄積を，不採算品目の開発やドラッグラグ解消の財源に充てるために導入が必要と主張しているそうです。

しかしこれほど医療機関が疲弊している折に，このような制度を議論する中医協というのは，どのような機関なのでしょう。もしこの制度が導入されると，この先の診療報酬改定では，財源をどこから捻出するのでしょうか。現在，四苦八苦して医療機関がやりくりし，どうにか踏みこたえているのに，特許で独占販売が保護されている薬をさらに価格が高止まりするよう保護するという製薬メーカーべったりの施策を認めるようでは，中医協のあり方，ひいては民主党政権のこれからにも，まったく期待ができないというものです。（島根・IT）

医事課の **たまちゃん** ★Lesson 76　忘年会★　イラスト・森岡倫理

●領収書の発行のメリット・デメリット

当院では今年の４月からすべての患者さんに領収書を発行することになりました。

項目ごとに詳しく表示されるため，患者さんから問い合わせがあったときに医事課職員でも項目の説明ができるようになったことはメリットだといえます。

ただ，項目名の定義（初診料，再診料，医学管理等）から説明することもあり，納得していただけないことも，ままあります。特に医学管理等については，前回と同じ診療内容なのに高いことや，１回のみ算定する項目について理解を得られない方が多いのです。メリットとデメリットは表裏の関係になっています。

ポスターやリーフレットを作って，患者さんに理解していただくよう努力してはいますが，制度自体がややこしいので効果のほどはわかりません。また，捨ててしまう方も多く，受付前のゴミ箱にゴミが増えました。用紙代もかかり，控えを取っておくにもスペースが取られます。

とはいえ払ったお金の内訳を知りたいのは，医療も普段の買い物も同じこと。少しでも理解していただけるよう，患者さんに説明している毎日です。（茨城県・TK）

●報道番組でわかった当院の課題

先日，医療をテーマにした報道番組が放映されていました。医療と言えば，救急医療の窮状，勤務医不足，医療難民・無保険者の増加などがお決まりのテーマですが，その日取り上げられていたのはソーシャルワーカー（SW）の業務。裏方にスポットライトが当たること，さらにそのSWが“イケメン”ということで，画面に見入ってしまいました（笑）。

番組では，SWが患者からの医療費支払いの相談に乗ったり，患者家族との面談を行う場面が放映されていました。演出効果（？）もあったと思いますが，その真摯で，ハートウォーミングな対応は，当院の“へっぽこSW”とは雲泥の差があり，その様に魅了されてしまいました。

番組のなかで印象的だったのが，「SWの患者対応業務は患者からのアプローチがないと始められないことが多い」というSWの言葉です。確かに，日常的に患者さんの経済的，社会的，心理的な問題や悩みを見つけ出すのはとてもむずかしいことです。だからこそ病院にとっての課題になるのだと再認識しました。

放映翌日，医事課の同僚にこのことを話すと，同僚は「うちの場合は，SWの再教育とSWの増員が先でしょう」と一言。当院の場合，業務改善の前にやるべきことがたくさんありそうです。（神奈川県・CK）

書籍紹介

医師の過重労働 ――小児科医療の現場から

江原　朗　著
発行：勁草書房・A5 判・224 頁
定価 2500 円（税込 2625 円）
2009 年 10 月刊

本書は主に小児医療分野に焦点を当てているが，「手間のかかる診療，少ないマンパワー」といった日本の医療の問題も，まさに小児医療に凝縮されている。当初小児科で問題となったコンビニ受診がここ数年でほかの診療科でも顕著になり，救急を時間外外来とみなす風潮が医療現場を疲弊させてきた。長時間勤務の常態化など労働環境の悪化は，医療の質の低下へとつながりかねない。

本書では，労務管理の観点に立ちこの問題を紐解いている。例えばオンコールについて，欧米では労働時間であると定義されたうえ，労働時間の上限も設定されているのに対し，日本ではそこが考慮されていないという指摘は興味深い。そのうえで，過重労働を防ぎつつ 24 時間医療を提供するにはどんな方策があり得るか，シミュレーションとともに提言してみせた。

医療資源をどう効率よく配分するかが鍵だ，という展望が豊富なデータをもとに実証されており，説得力に富む一冊である。（ミ）

営業部からのお知らせ

延び延びになっていた『**標準・傷病名事典　Ver. 2.0**』**【2010 年新版】**が，12 月 11 日刊行。国立国際医療センターを中心とした医師 35 名が，最新の医学・臨床知見に基づいて精緻に執筆，日常的に診断されるほぼすべての傷病名（旧版に約 300 病名追加）を収載しています。保険請求・レセプト点検・DPC 請求・診療情報管理の必携書としてご活用下さい。▼新しい図書目録（2010 年 1 月版）が新年早々に出来上ります。４月には診療報酬の点数改定も行われ，これに準拠した年度版も数多く刊行します。その予定ならびに内容見本，新刊のご案内等を掲載しています。どうぞご覧下さい。

読者めーる大募集中 !!

職場での話題，面白話，世の人々に訴えたい胸に秘めた思いなど，お便りをどんどんお寄せ下さい。掲載分には図書カード 1,000 円分を差し上げます。

＊ｅメール宛先：it@igakutushin.co.jp
＊はがき宛先：〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-6 十歩ビル ㈱医学通信社『めーるBOX』係
＊FAX 宛先：03-3512-0254